

平成28年4月入学大学院農学府修士課程（第2次）学生募集要項

および過去3年間の試験問題の請求方法について

- 配付時期 平成27年10月2日（金）から教務係窓口および郵送にて配付
（土日、祝日を除く9：00～17：00まで）
- 出願期間 窓口受付期間 平成27年12月2日（水）～12月3日（木）
（受付時間は午前10時から正午、午後1時から午後4時までとします。）
郵送受付期間 平成27年11月6日（金）～11月20日（金）
（11月20日 午後4時までに簡易書留の郵送により到着したものを
受理します。）

○郵送による請求

封筒の表面に「東京農工大学大学院農学府修士課程学生募集要項請求」と朱書きの上、郵便番号、住所、氏名、電話番号、志望専攻名(未定の場合は候補の専攻)を記入したメモと下記の返信分の金額の切手を貼った返信用の角形2号封筒を同封して、請求してください。

返信用封筒の表面に返信先の郵便番号、住所、氏名を記入してください。

発送には日時がかかることがありますので、余裕をもって請求してください。

なお、このPDFの募集要項をプリントアウトして出願しても受理されません。

1) 「学生募集要項」のみ

切手の金額250円（速達の場合は530円）

2) 「学生募集要項」＋「過去3年間の試験問題コピー」

切手の金額400円（速達の場合は780円）

3) 「過去3年間の試験問題のコピー」のみ

切手の金額205円（速達の場合は485円）

※2専攻分の場合250円（速達の場合は530円）

○過去3年間の試験問題のコピーについて

著作権処理の関係上、著作権に係る箇所を空白にして配付しています。

なお、過去3年間の試験問題全文は教務係窓口で閲覧可能です。

【請求先および問い合わせ先】

〒183-8509

東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学 府中地区事務部学生支援室教務係

TEL：042-367-5659（土日、祝日を除く9：00～17：00まで）

平成28年4月入学

東京農工大学大学院

農学府修士課程（第2次） 学生募集要項

（社会人特別選抜を含む）

東京農工大学大学院農学府

平成28年 4 月入学
東京農工大学大学院農学府修士課程（第2次）学生募集要項
（社会人特別選抜を含む）

入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）

本学の基本理念は、農学と工学およびそれに関連する諸分野を対象とした教育・研究を推進し、それを通じて、人類の生存・繁栄と美しい地球の持続に貢献することにあります。

本学府では、さまざまな人間活動の拡大に伴う食料・資源問題、環境・公害問題、人口問題等が地球規模で深刻化しつつある現状を直視し、①21世紀の人口・食料・資源・環境問題の解決に不可欠な生命・生物機能・生物資源・環境・情報・人文社会系諸科学の専門的能力を養成すること、②自然と人間及び社会・文化に関して深い理解と洞察ができる広い専門知識を養成すること、③課題探求能力を持ち、社会要請に応じて、使命志向型科学を駆使し、問題解決を計る能力を養成すること、④諸外国の文化を理解し、国際社会において指導的立場で活躍できる能力を養成すること、⑤自己啓発意欲の持続高揚と、極めて高度な教育研究意欲を養成すること、を教育目的としています。

以上の目的に即して、アグリサイエンス、バイオサイエンス、エコサイエンス関連分野の専門職業人・研究者として将来活躍し、そのことを通じて社会に貢献することを望み、かつ本学の要求学力水準に達した学生を広く国内外から受け入れます。

1. 募集人員

| 専 攻 名 | 募集人員 |
|------------|--------|
| 生物生産科学専攻 | 各専攻若干名 |
| 共生持続社会学専攻 | |
| 応用生命化学専攻 | |
| 生物制御科学専攻 | |
| 環境資源物質科学専攻 | |
| 物質循環環境科学専攻 | |
| 自然環境保全学専攻 | |
| 農業環境工学専攻 | |
| 国際環境農学専攻 | |

2. 出願資格

〔一般選抜〕

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者。
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び平成28年3月までに学位授与見込みの者。
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了し

たとされるものに限る。)を有するものとして、当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。

- (6) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者。
- (7) 文部科学大臣の指定した者。
- (8) 本学府が、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成28年3月31日までに22歳に達した者。
- (9) 平成28年3月31日現在において、学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。
- (10) 平成28年3月31日現在において、外国で学校教育における15年の課程を修了し、本学府が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者。

(注1) 大学卒業までに学校教育における16年以上の課程を有しない国の出身者等については事前に出願資格審査を行うので、平成27年10月20日(火)までに府中地区事務部学生支援室教務第二係へ必ず申し出てください。

(注2) (8)、(9)及び(10)によって出願する者は、「出願資格(8)について」(P.9)又は、「出願資格(9)・(10)について」(P.10)を参照してください。

(注3) その他出願資格について不明な点は事前に府中地区事務部学生支援室教務第二係にお問い合わせください。

【社会人特別選抜】

出願時において国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における2年以上の研究・試験実績等を有する者で、上記(1)から(7)のいずれかに該当する者。

3. 出願期間

窓口受付期間 平成27年12月2日(水)～12月3日(木)

(受付時間は午前10時から正午、午後1時から午後4時までとします。)

郵送受付期間 平成27年11月6日(金)～11月20日(金)

(11月20日(金)までに、簡易書留の郵送により到着したものを受理します。)

4. 出願手続

出願者は次のように出願手続を行い、受験票の交付を受けてください(郵送の場合の受験票は手続完了次第送付します)。

(1) 提出先

〒183-8509

東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学 府中地区事務部学生支援室教務第二係

電話(直通)042-367-5659【土・日・祝日・年末年始を除く午前9時～午後5時】

(2) 提出書類及び検定料

〔一般選抜〕

| 提出書類等 | 注 意 事 項 | | |
|--------------------------------|--|--------------------------------------|--|
| 入学志願票・写真票・受験票・入学検定料納付確認票 | 本学所定用紙を使用。写真は無帽上半身縦4.5 cm×横3.5 cm。出願前3ヶ月以内に撮影したものを写真票の所定の位置に貼り付けてください。 | | |
| 履 歴 書 | 本学所定用紙を使用。 | | |
| 志 望 理 由 書 等 | 生物生産科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究計画書 (様式任意) | 入学後の研究計画を記入。 A 4用紙、字数は1,000字程度。 |
| | 共生持続社会学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究課題レポート (様式任意) | 志望専攻に関わる研究課題レポートを記入。A 4用紙とし字数は2,000字以上、4,000字以内 |
| | 応用生命化学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | 生物制御科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要 (様式任意) | A 4用紙1枚以内(2,000字程度、図表を含めても可)とします。 卒業論文等を履修していない者は、これまでに学んできたことと入学後の研究に対する抱負を記入してください。 |
| | 環境資源物質科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要 (様式任意) | A 4用紙1枚 卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画を記入してください。 |
| | 物質循環環境科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要及び入学後の研究計画 (様式任意) | A 4用紙1枚(字数は、1,000字程度) 卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画を記入してください。 |
| | 自然環境保全学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| 研究計画書 (様式任意) | | 入学後の研究計画を記入。 A 4用紙1枚。字数は1,000字程度。 | |
| 農業環境工学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 | |
| 国際環境農学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 | |
| 成 績 証 明 書 | 出身(在学)大学が作成したもの。(和文を原則とするが、英文でもよい。) | | |
| 卒業(見込)証明書 | 出身(在学)大学が作成したもの。また、取得した学位の記載が無い場合は、学位取得に関する証明書を併せて提出すること。(和文を原則とするが、英文でもよい。) | | |
| 検 定 料 (本学所定の入学検定料払込用紙により払込) | 30,000円：本学所定の入学検定料払込用紙で郵便局に払込みのうえ、受付局日附印を押した「振替払込受付証明書」を受け取り、「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けてください。なお、「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。ただし、日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は納入不要です。 (注意)「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認しますので、入学検定料の納付は郵便局の受付窓口での払込に限ります。(ATMは使用不可。) | | |
| 宛 名 票 | 本学所定用紙を使用。合格通知等を受け取る場合の住所、氏名等(3ヶ所)を記入。 | | |
| 返 信 用 封 筒 (郵送出願者のみ) | 定形封筒(長形3号12 cm×23.5 cm)。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を明記し、郵便切手372円を貼り付けたものを同封してください。【12月10日(木)までに、受験票が届かない場合は、教務第二係に連絡してください。】 | | |
| そ の 他 | ①外国人の場合には、 <u>在留期間及び在留資格</u> を明記した「住民票の写し」を必ず提出してください。 ②出願資格(2)に該当する者は、それを証明する書類を必ず提出してください。 ③証明書の氏名と現在の氏名が異なっている場合には、氏名変更を証明するもの(戸籍抄本等)を提出してください。 ④日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は国費外国人留学生証明書を提出してください。(ただし、本学在籍者は不要です。) | | |

〔社会人特別選抜〕

| 提出書類等 | 注 意 事 項 | | |
|--------------------------|--|--|---|
| 入学志願票・写真票・受験票・入学検定料納付確認票 | 本学所定用紙を使用。写真は無帽上半身縦4.5cm×横3.5cm。出願前3ヶ月以内に撮影したものを写真票の所定の位置に貼り付けてください。 | | |
| 履 歴 書 | 本学所定用紙を使用。 | | |
| 志 望 理 由 書 等 | 生物生産科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 共生持続社会学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究課題レポート (様式任意) | 志望専攻に関わる研究課題レポートを記入。A4用紙とし字数は2,000字以上、4,000字以内 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 応用生命化学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 生物制御科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要 (様式任意) | A4用紙1枚以内(2,000字程度、図表を含めても可)とします。卒業論文等を履修していない者は、これまでに学んできたことと入学後の研究に対する抱負を記入してください。 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 環境資源物質科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要 (様式任意) | A4用紙1枚 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 物質循環環境科学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 卒業論文等の概要 (様式任意) | A4用紙1枚(字数は、1,000字程度) |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 自然環境保全学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| | 農業環境工学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 |
| | | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 |
| 国際環境農学専攻 | 志望理由書 (本学所定用紙) | 字数は、1,000字程度。 | |
| | 研究計画書 (本学所定用紙) | 入学後の研究計画について具体的に記入してください。なお、指導予定教員氏名を募集要項参照のうえ、必ず記入してください。 | |

| | |
|--|--|
| 在 職 証 明 書 | (様式随意) 出願時までに国公立の研究機関・試験場・教育機関等や民間企業の試験・研究機関等における2年以上の研究・試験実績等を有する者であることの内容を記した勤務先の長(任命権者又はこれに準ずる者)による証明書 |
| 受 験 承 諾 書 | (様式随意) 在職のまま受験することを承諾した旨が記載された勤務先の長(任命権者又はこれに準ずる者)による証明書 |
| 成 績 証 明 書 | 出身(在学)大学が作成したもの。(和文を原則とするが、英文でもよい。) |
| 卒業(見込)証明書 | 出身(在学)大学が作成したもの。また、取得した学位の記載が無い場合は、学位取得に関する証明書を併せて提出すること。(和文を原則とするが、英文でもよい。) |
| 返 信 用 封 筒 (郵送出願者のみ) | 定形封筒(長形3号12cm×23.5cm)。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を明記し、郵便切手372円を貼り付けたものを同封してください。【12月10日(木)までに、受験票が届かない場合は、教務第二係に連絡してください。】 |
| 検 定 料 (本学所定の入学検 定料払込用紙により 払込) | 30,000円:本学所定の入学検定料払込用紙で郵便局に払込みのうえ、受付局日附印を押した「振替払込受付証明書」を受け取り、「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けてください。なお、「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。ただし、日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は納入不要です。 (注意)「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認しますので、入学検定料の納付は郵便局の受付窓口での払込に限ります。(ATMは使用不可。) |
| 宛 名 票 | 本学所定用紙を使用。合格通知等を受け取る場合の住所、氏名等(3ヶ所)を記入。 |
| 返 信 用 封 筒 (郵送出願者のみ) | 定形封筒(長形3号12cm×23.5cm)。郵送で出願する場合は、受験票返送用として住所、氏名を明記し、郵便切手372円を貼り付けたものを同封してください。【12月10日(木)までに、受験票が届かない場合は、教務第二係に連絡してください。】 |
| そ の 他 | ①外国人の場合には、 <u>在留期間及び在留資格</u> を明記した「住民票の写し」を必ず提出してください。 ②出願資格(2)に該当する者は、それを証明する書類を必ず提出してください。 ③証明書の氏名と現在の氏名が異なっている場合には、氏名変更を証明するもの(戸籍抄本等)を提出してください。 ④日本政府から奨学金を支給されている国費外国人留学生は国費外国人留学生証明書を提出してください。(ただし、本学在籍者は不要です。) |

(注) 1. 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

2. 出願時に入手した個人情報、本学プライバシーポリシーに則って使用しますので、それ以外の目的には使用しません。

(3) 提出方法

上記の提出書類を出願期間(P.2)に提出先へ持参又は郵送してください。

郵送の場合は必ず簡易書留とし、封筒の表に「大学院入学願書在中」と朱書してください。

(4) 身体に障害がある者で受験上及び修学上特別な配慮を希望する者は、必ず11月13日(金)までに府中地区事務部学生支援室教務第二係へ問い合わせてください。

5. 選抜方法・試験科目・日時及び場所

〔一般選抜〕

入学者の選抜は、学力検査により行います。志望理由書及び出身学校の成績証明書等は、口述試験の参考資料として扱います。口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

(1) 学力検査

| 専攻名 | 期 日 時 間 選抜 方法 | 平成27年12月24日（木） | |
|------------|------------------------------|----------------------|--|
| | | 午前 9 時30分 ～11時30分 | 午後 1 時～ |
| | | 筆記試験 | 口述試験・口述試験の実施方法 |
| 生物生産科学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 出願時に提出した入学後の研究計画書を資料として、5分以内で研究目的・研究計画を発表し、その後質疑応答を行います。 2. 生物学や化学の基礎学力について口頭試問を行います。 |
| 共生持続社会学専攻 | 外国語（英語、ただし外国人(注)は日本語も可） | | 出願時に提出した志望専攻に関わる研究課題レポートをもとに10分以内で発表し、質疑応答を行います。 |
| 応用生命化学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要（卒業論文を履修していないものは、入学後の研究計画）について*パワーポイント（枚数自由）を使用して8分以内で発表してください。その際、メモを見ながらの発表は認めません。 2. 発表後、発表内容及び関連する生物学や化学等の基礎学力について口頭試問を行います。質疑応答の際にはホワイトボードを使用することも可能です。 |
| 生物制御科学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 出願時に提出した卒業論文等の概要及び入学後の研究に対する抱負について8分以内で発表してください。 その後、専門的な質疑応答並びに志望理由書に基づいた一般的な面接を行います。 2. 発表に際しては、資料、*パワーポイント（枚数自由）のいずれかを用意してください。 |
| 環境資源物質科学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要（志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. 発表は、*パワーポイント（枚数自由）によること。なお、プロジェクターはこちらで用意します。 |
| 物質循環環境科学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要及び入学後の研究計画（志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. *パワーポイントを使い発表すること。パワーポイントの枚数は制限しません。メモを見ながらの発表は認めません。 |
| 自然環境保全学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要（志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、質疑応答を行います。発表は、*パワーポイント（スライド4枚以内）によること。 2. 志望教育研究分野の学力について口頭試問を行います。 |
| 農業環境工学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望専攻に関わる学習・研究概要（卒業論文や調査報告書など、専門分野に関する知見の有無が判定できるもの）及び入学後の研究計画について5分程度で発表し、質疑応答を行います。 なお、志望専攻に関わる学習・研究概要及び入学後の研究計画については、A4用紙（様式任意）2枚程度に記入のうえ、口述試験当日に8部持参してください。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（枚数自由）の使用可。 |
| 国際環境農学専攻 | 外国語（英語） | | 1. 志望教育研究分野に関わる卒業論文等の概要（志望教育研究分野に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画）を5分以内で発表し、知識と適性に関して質疑応答を行います。 2. 発表に際しては、*パワーポイント（4スライド以内）の使用可。 |
| 場 所 | | 東京農工大学農学府 | |

(注) 出願資格(3)・(4)・(5)の者、外国人留学生として日本の大学を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者として志願する者を示し、出願時に英語又は日本語の受験する科目を選択してください。

※ パワーポイントについては、ウィンドウズ・パワーポイントを用意しますので、USBメモリで電子ファイルを持参してください。なお、USBメモリについては、事前に必ずウイルスチェックを行ってください。また、スライドの内容を印刷した資料（A4用紙1ページに1コマ）も必ず1部持参してください。

〔社会人特別選抜〕

入学者の選抜は、学力検査により行います。志望理由書、出身大学の成績証明書及び研究計画書は、口述試験の参考資料として扱います。

口述試験は、志望教育研究分野についての適性、その他について審査します。

(1) 学力検査

| 専攻名 | 期 日 | | 平成27年12月24日 (木) | |
|------------|--------------------------|---|-----------------|--|
| | 時 間 | 選抜方法 | | |
| | | 午前 9 時30分 ～11時30分 | 午後 1 時～ | |
| | 筆記試験 | | 口述試験・口述試験の実施方法 | |
| 生物生産科学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 出願時に提出した入学後の研究計画書を資料として、5分以内で研究目的・研究計画を発表し、その後質疑応答を行います。 2. 生物学や化学の基礎学力について口頭試問を行います。 | | |
| 共生持続社会学専攻 | 外国語 (英語、ただし外国人(注)は日本語も可) | 出願時に提出した志望専攻に関わる研究課題レポートをもとに10分以内で発表し、質疑応答を行います。 | | |
| 応用生命化学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要 (卒業論文を履修していないものは、入学後の研究計画) について*パワーポイント (枚数自由) を使用して8分以内で発表してください。その際、メモを見ながらの発表は認めません。 2. 発表後、発表内容及び関連する生物学や化学等の基礎学力について口頭試問を行います。質疑応答の際にはホワイトボードを使用することも可能です。 | | |
| 生物制御科学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 出願時に提出した卒業論文等の概要と研究計画書について8分以内で発表してください。その後、専門的な質疑応答並びに志望理由書に基づいた一般的な面接を行います。 2. 発表に際しては、資料、*パワーポイント (枚数自由) のいずれかを用意してください。 | | |
| 環境資源物質科学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要 (志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画) を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. 発表は、*パワーポイント (枚数自由) によること。なお、プロジェクターはこちらで用意します。 | | |
| 物質循環環境科学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要及び入学後の研究計画 (志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画) を5分以内で発表し、質疑応答を行います。 2. *パワーポイントを使い発表すること。パワーポイントの枚数は制限しません。メモを見ながらの発表は認めません。 | | |
| 自然環境保全学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 志望専攻に関わる卒業論文等の概要 (志望専攻に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画) を5分以内で発表し、質疑応答を行います。発表は、*パワーポイント (スライド4枚以内) によること。 2. 志望教育研究分野の学力について口頭試問を行います。 | | |
| 農業環境工学専攻 | 外国語 (英語) | 1. 志望専攻に関わる学習・研究概要 (卒業論文や調査報告書など、専門分野に関する知見の有無が判定できるもの) 及び入学後の研究計画について5分程度で発表し、質疑応答を行います。 また、学習・研究概要の根拠となるもの (卒業論文や調査報告書など) も併せて、口述試験当日持参してください。 2. 発表に際しては、*パワーポイント (枚数自由) の使用可。 | | |
| 国際環境農学専攻 | 外国語(英語) | 1. 志望教育研究分野に関わる卒業論文等の概要 (志望教育研究分野に関わる卒業論文等を履修していない者は、入学後の研究計画) を5分以内で発表し、知識と適性に関して質疑応答を行います。 2. 発表に際しては、*パワーポイント (4スライド以内) の使用可。 | | |
| 場 所 | 東 京 農 工 大 学 農 学 府 | | | |

(注) 出願資格(3)・(4)・(5)の者、外国人留学生として日本の大学を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者として志願する者を示し、出願時に英語又は日本語の受験する科目を選択してください。

※ パワーポイントについては、ウィンドウズ・パワーポイントを用意しますので、USBメモリで電子ファイルを持参してください。なお、USBメモリについては、事前に必ずウイルスチェックを行ってください。また、スライドの内容を印刷した資料 (A4用紙1ページに1コマ) も必ず1部持参してください。

6. 合格発表

合格者を平成28年1月19日（火）午前10時、東京農工大学農学府・農学部掲示板（正門掲示板）に発表するとともに本学のホームページ（<http://www.tuat.ac.jp/>）上に補助的手段として平成28年1月19日（火）午前10時30分頃から3日間掲載します。

また、合格者には合格通知を本人に郵送します。なお、電話での問い合わせには一切応じません。

7. 入学手続

(1) 入学手続の日時及び場所

日時 平成28年3月14日（月）

入学手続き方法等の詳細については、あらためて本人に郵送します。

(2) 入学に要する費用等

①入学料 282,000円

②授業料（前期分）267,900円（後期分）267,900円

（注） 入学料、授業料の金額は改定されることがあります。なお、在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

(3) 必要書類等

在職のまま入学を希望する者は所属長等による入学承諾書（様式任意）を提出してください。

なお、提出できない場合は入学許可を取り消すことがあります。

8. 注意事項

(1) 出願にあたっては、志望する指導教員に連絡し、事前に確認を得て下さい。

(2) 受験者は、学力検査当日に必ず本学から交付した受験票を所持しなければなりません。

(3) 学生募集に関する照会は、東京農工大学府中地区事務部学生支援室教務第二係において受け付けます。

(4) 出願手続き終了後は、提出書類（記載事項を含む）の変更は出来ないので記載事項等を十分確認のうえ提出してください。

また、検定料の払い戻しはいたしません。

9. その他

社会人特別選抜入学制度によって、本学府に入学した学生は、原則として通常の時間帯における科目を履修するものとしますが、専攻が教育上特別な必要性を認めた場合は、大学院設置基準第14条に示される教育方法の特例（規定）に基づいて単位を取得することができます。

出願資格（8）について

- (1) この出願資格の認定については、次のとおり事前審査によって行いますので、次の必要書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室教務第二係に提出してください。

審査は、書類及び口述で行います。レポートは、口述審査の参考資料として扱います。

(必要書類)

| | |
|------------------|---|
| 入学試験出願資格事前審査申請書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 履歴書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 最終出身学校の卒業（見込）証明書 | 出身（在学）大学等が作成したもの（和文を原則とするが、英文でもよい。） |
| 最終出身学校の成績証明書 | 出身（在学）大学等が作成したもの（和文を原則とするが、英文でもよい。） |
| レポート | 課題「出願動機と志望専攻に関わる抱負」又は、「卒業研究、課題研究、又はそれと同程度の研究報告書等の要旨」（字数2000字程度、書式A4判レポート用紙） |
| 返信用封筒 | 住所、氏名及び郵便番号を明記し、372円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12 cm×23.5 cm） |

(注) 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

- (2) 事前審査申請書類受付

受付期間 平成27年10月13日（火）～10月20日（火）

受付時間は午前10時から正午、午後1時から午後4時までとします。

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室教務第二係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

郵送の場合は簡易書留とし、「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

- (3) 口述審査

日程 平成27年10月30日（金）予定（詳細は事前審査受付後、本人あてに通知します。）

場所 東京農工大学農学府

- (4) 事前審査の結果は、平成27年11月18日（水）までに本人あてに通知します。

- (5) 事前審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、出願書類受付期間に出願資格を認定した通知文書を添付して出願手続を行ってください。

出願資格（9）・（10）について

(1) この出願資格の認定については、次のとおり事前審査によって行いますので、次の必要書類を事前審査申請書類受付期間中に府中地区事務部学生支援室教務第二係に提出してください。

(必要書類)

| | |
|-------------------|---|
| 入学試験出願資格事前審査申請書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 履歴書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 志望理由書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 研究計画書 | 本学所定用紙を使用。 |
| 成績証明書 | 出身（在学）大学等が作成したもの（和文を原則とするが、英文でもよい。） |
| 在籍大学学部・学科の授業科目要項等 | 本学在籍者は不要です。 |
| 返信用封筒 | 住所、氏名及び郵便番号を明記し、372円切手を貼付した定型封筒（長形3号 12 cm×23.5 cm） |

(注) 本学所定用紙は、本冊子に綴じ込まれています。

(2) 事前審査申請書類受付

受付期間 平成27年10月13日（火）～10月20日（火）

受付時間は午前10時から正午、午後1時から午後4時までとします。

受付場所 東京農工大学府中地区事務部学生支援室教務第二係

〒183-8509 府中市幸町3-5-8

電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

郵送の場合は簡易書留とし、「事前審査申請書類在中」と朱書きし、上記期間内に到着するように郵送してください（期間内必着）。

(3) 事前審査の結果は、平成27年11月18日（水）までに本人あてに通知します。

(4) 事前審査申請書により出願資格の認定を受けた者に、事前審査結果通知とともに出願方法・選抜方法等を通知します。

(5) 出願書類受付期間

平成27年12月2日（水）～12月3日（木）

(6) 学力検査日

平成27年12月24日（木）

(7) 合格発表

平成28年1月19日（火）

(8) 注意事項

出願資格に基づき出身の大学を卒業することなく本学府に入学した場合、出身大学は退学する必要があります。この選抜によって、本学府に入学した者の学部生としての学籍上の身分は退学となります。

これによって、学部卒業が要件となる各種資格及び受験資格はなくなりますので十分留意してください。

東京農工大学大学院農学府修士課程概要

農学府は、入学生募集の基本方針（アドミッション・ポリシー）に沿った人材を育成するために、生物生産科学、共生持続社会学、応用生命化学、生物制御科学、環境資源物質科学、物質循環環境科学、自然環境保全学、農業環境工学および国際環境農学の9専攻から構成され、各専攻には2～4の教育研究分野が設けられています。

本学府では、これらの農学教育研究の各分野において長い伝統と学問的成立に立脚し、基礎的あるいは応用的研究、先端的あるいは総合的・学際的に取り組んでおり、すでに多くの修了者は大学・官公庁・産業界をはじめ日本のみならず海外における研究・技術の発展と開発に大きく寄与しています。例えば、全組織（農学府、工学府、連合農学研究科）横断的に設置された「アジア・アフリカ環境リーダー育成コース」では、アジア・アフリカの環境政策を提言できる「現場立脚型環境リーダー」の養成を行っています。

また、本学府は首都の郊外に位置し、四季を通じて豊かな自然の環境に恵まれ、各種研究機関、他大学、学会等との連携にも便利で、研究推進上多くの利点を持っています。

1. 各専攻の各教育研究分野の教育研究の目的、主な授業科目および研究内容

| 専攻 | 生物生産科学専攻 | | | | | |
|-----------|--|---|--|--|--|--|
| 教育研究の目的 | 食料生産技術と環境保全の調和、持続的な生物生産体系の確立、食料自給率向上や安定供給、動植物の生産機能の解明、バイオマス利活用技術の開発等に貢献する能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | | | |
| 教育研究分野 | 生産環境科学 | | 植物生産科学 | | | |
| 内容 | 環境と調和した生物生産を通じて安全な食料の供給を実現するため、農業生産をとりまく動植物—昆虫—微生物—土壌などの環境要素を総合的に解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導的人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。 | | 食料の持続生産と効率性・安全性を実現するため、植物について、分子・細胞・個体・個体群の生産機能向上について解析研究するとともに、その基礎となる高度な専門知識及び研究手法を教育して、農業・食料・生物資源関連産業分野の指導的人材及び技術開発に貢献できる人材を養成する。 | | | |
| 主な授業科目 | 作物生産学特論、土壌環境学特論、土壌生化学・物質循環特論、土壌微生物利用・バイオ肥料学特論、植物栄養・肥料科学特論、昆虫管理学特論、作物保護学特論、家畜生産技術学特論 | | 作物学特論、植物生態生理学特論、園芸作物学特論、植物繁殖学特論、植物分子生理学特論、植物遺伝育種学特論 | | | |
| 担当教員と研究内容 | 伴 塚也 | 環境要因が園芸作物の成長に及ぼす影響の解明と栽培技術への応用 | 大川泰一郎 | 食用・飼料用イネなどの作物における多収・高バイオマス生産、光合成および倒伏抵抗性に関わる生態生理学的性質の解明、および解明された重要な性質のQTL解析による品種改良への適用 | 横山 岳 | 様々な生理現象に関係する突然変異変を用いた遺伝学的解析およびモザイク変、倍体変、単為発生変の誘発とそれらを用いた発生学的解析 |
| | 杉村 智史 | 家畜の繁殖技術、特に生育可能な家畜受精卵の生産とその選択および移植に関する研究 | | 萩原 勲 | | 園芸作物（野菜、果樹、花卉）の形態、生態、生理に関する特性の解明とその特性を生かした栽培技術の開発 |
| | 田中 治夫 | 土壌生化学手法を用いた土壌中の養分や有機物の動態解明と土壌生産力の評価 | 新井 克彦 | | 幹細胞の分化における細胞外マトリックスの機能並びに下等動物由来マトリックス成分の高度利用開発 | |

| 専攻 | 生物生産科学専攻 | | | | |
|---------------|----------|---|--------|---|--|
| 教育研究分野 | 生産環境科学 | | 植物生産科学 | | 動物生産科学 |
| 担当教員と 研究内容 | 横山 正 | 土壌微生物の作物との相互作用機構、多様性、作物への特異的な養分供給機構、バイオ肥料としての利用等に関する研究 | 鈴木 栄 | 組織培養や遺伝子組み換え技術を用いた大量増殖法と品種育成に関する研究 | 天竺桂弘子 昆虫から農業として有用な生理活性物質の探索に関する研究およびヒト疾患解析モデル系として有用なカイコ変異体系統の探索に関する研究 |
| | 大津 直子 | 作物の硫黄と窒素の栄養に関して、特に作物における含硫化合物グルタチオンの代謝機構の解明及び硫黄栄養が窒素固定に与える影響の解析 | 金勝 一樹 | 植物のストレスに対する応答、種子形成や発芽の誘導、植物のプロテオーム等に関する生化学的な研究 | |
| | 本林 隆 | 農耕地生態系における昆虫群集（害虫・天敵・ただの虫）の制御管理に関する研究 | 山田 哲也 | オミックス情報に基づき、老化や雑種致死など、植物の各種形質を支配している遺伝子群を同定し、それらを利用した分子育種技術を開発し、作物の品種改良を効率化する研究 | |

| 専攻 | | 共生持続社会学専攻 | | | | | | |
|-----------|---|--|---|--|--|---|--------------|--|
| 教育研究の目的 | 人文社会科学分野において、農学諸分野の科学技術を理解し、企画・課題遂行・調整などに卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため共生人間学・環境社会関係学・食糧環境経済学の専門分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | | | | | |
| 教育研究分野 | 共生人間学 | | 環境社会関係学 | | 食糧環境経済学 | | | |
| 内容 | 人間と自然（また、人間と人間）の共生のあり方に関する人文社会科学的研究 特に、哲学、倫理学、心理学、歴史学、社会学の分野にわたる総合的研究 | | 環境問題を解決し、持続可能な社会を実現するための社会科学的研究 特に、社会・教育システム、法制度、経済政策、国際協力の分野にわたる総合的研究 | | 環境共生型社会を実現し、持続的な農業・農村システムを創出するための農業経済学的研究、農業経営・生産組織に関わる研究、農産物流通・食糧関連産業に関わる研究 | | | |
| 主な授業科目 | 環境生業文化史論、アニマル・ウェルフェア特論、ヒトと動物の共生心理学、農村社会学特論、環境共生思想 | | 国際関係学特論、食育・食農教育論、環境経済学特論、環境法特論、共生教育論 | | 共生農業特論、地域農業システム特論、農業資源経済学特論、食農マーケティング論、食料関連農業特論 | | | |
| 担当教員と研究内容 | 高橋 美貴 | 生業の歴史、地域資源の利用や管理に関わる歴史など、人間と自然の関係にかかわる歴史学的研究 | 渡邊 司 | 国際協力の在り方と政策の研究 | 山崎 亮一 新井 祥穂* | 国内外の農業の構造分析を踏まえた持続可能な農業・農村社会の構築に関する経済学的・政策学的な研究、共生社会のあり方に関する農業経済学的な研究 | | |
| | 武田 庄平 | ヒトを含む霊長類を中心とした比較認知科学的行動研究、及び飼育下での環境エンリッチメントや動物福祉 | 朝岡 幸彦 | 環境教育学及び持続可能な開発のための教育（ESD）を中心とした主体形成の教育学の研究 | | | 千年 草処 篤基* | 発展途上国・移行経済国の農業経営形態の特徴と変容ならびに格差問題に関する研究 |
| | 甲田菜穂子 | 身近な動物と人との関係についての心理・行動研究とその成果を人の福祉の向上に役立てる実践的研究 | 吉田 央 | 政治経済学の理論研究およびそれを応用した環境問題の分析 | 野見山敏雄 成田 拓未** | 農産物および食品市場をめぐる流通・加工過程、流通政策、産直や有機農業などに関する社会科学的研究 | | |
| | 澤 佳成* | 人間と自然との共生および環境問題の背景に関する、哲学的、人間学的、社会思想的研究 | 榎本 弘行 | 環境の負荷を防止・低減することを目的とする法である環境法に関する研究 | | | | |
| | | | 降旗 信一 | 持続可能な社会をつくるための共生教育と公共性に関する研究 | | | | |

* 2 入学志願票（注）4 参照

| 専攻 | 応用生命化学専攻 | | | |
|-----------|---|---|-------|--|
| 教育研究の目的 | 生体分子化学、生理生化学、分子生物学、環境老年学などの生命機能を理解し応用する専攻分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | |
| 教育研究分野 | 生体分子化学 | 生理生化学 | | |
| 内容 | 生命機能分子の構造解析・合成・機能改変・有効利用等に関する教育研究を行う。 | 生理生化学的調節の分子機構の解析・制御と医薬・治療法や物質生産への応用に関する教育研究を行う。 | | |
| 主な授業科目 | 生体分子化学特論Ⅰ、Ⅱ | 生理生化学特論Ⅰ、Ⅱ | | |
| 担当教員と研究内容 | 千葉 一裕 | 生体分子、生物活性物質、バイオミメティック分子の反応と合成 | 三浦 豊 | 疾病モデルを用いた食品因子の機能検定とその作用機構解析 |
| | 北野 克和 | 生理活性物質の構造活性相関の考察と活性発現機構の解明 | | |
| | 服部 誠 | 糖質とのハイブリッド化による食品タンパク質の高機能化 | 西河 淳 | 糖タンパク質糖鎖、メンブレントラフィック関連因子の生理的機能の解明 |
| | 好田 正 | 食品の免疫調節機構の解明とアレルギーの予防への応用 | | |
| | 野村 義宏 | 生体高分子の機能に基づいた有効利用 | 殿塚 隆史 | 糖質・糖鎖関連酵素の立体構造と機能の解析およびその利用 |
| | 木村 郁夫 | 脂質リガンド受容体を標的としたエネルギー代謝機構解明と創薬応用 | | |
| 蓮見 恵司 | 微生物由来の生理活性物質の単離と作用解析 | 鈴木絵里子* | | |
| 新井 浩司 | 細胞外マトリックスによる細胞機能調節と組織再生機構の解明 | | | |
| 教育研究分野 | 分子生物学 | 環境老年学 | | |
| 内容 | 遺伝子・タンパク質の解析・発現制御・改変・再構築・導入及びポストゲノム解析等に関する教育研究を行う。 | 老化に伴う認知症や運動・学習能力の低下に伴う介護等、高齢化社会における諸問題に対応するために、医学と農学の両方の立場からその解決法を探るための教育研究を行う。 | | |
| 主な授業科目 | 分子生物学特論Ⅰ、Ⅱ | 環境老年学特論Ⅰ、Ⅱ | | |
| 担当教員と研究内容 | 高橋 信弘 | ゲノム科学による細胞機能の網羅的解析 | 重本 和宏 | 身体の老化のメカニズム、細胞の老化のメカニズム、高齢者における臓器と老年病の発症病態に関する基礎・応用生物学 |
| | 川合 伸也 | 植物代謝産物の生合成制御解析と分子育種 | | |
| | 山形 洋平 | 微生物ゲノム情報に基づく遺伝子及びその産物の解析と利用 | | |
| | 丹生谷 博** | 植物および微生物の遺伝子発現及び細胞分化の分子遺伝学的研究 | | |
| | 佐々木信光** | | | |
| 松下 保彦 | 植物遺伝子発現調節機構の解明 | | | |

* 1 平成29年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本専攻所属教員に変更し、引き続き修学が可能。

* 2 入学志願票（注）4参照

| 専攻 | | 生物制御科学専攻 | | |
|-----------|--|---|--|---|
| 教育研究の目的 | 植物、微生物、昆虫などの生物の制御及び生物間相互作用に関する研究分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | |
| 教育研究分野 | 生物機能制御学 | | 生物適応制御学 | |
| 内容 | 生体分子から個体、群集に至る生物の機能系を分子生物学、分子遺伝学、ゲノム生物学、天然物化学、生態学の立場から理解し、動植物や微生物の機能制御への応用を目的とした教育研究を行う。 | | 細胞、個体、個体群、群集の各レベルにおける生物の機能に着眼し、昆虫を中心とした小動物および天敵微生物を対象にして、有用物質生産への利用、有害生物の制御や医薬開発への応用を目的とした教育研究を行う。 | |
| 主な授業科目 | 植物病理学特論、植物病原学特論、生物制御化学特論、生理活性天然物化学特論、細胞分子生物学特論、植物生理学特論、発生生物学特論 | | 応用昆虫学特論、昆虫生理化学特論、天敵微生物学特論、生物的制御学特論 | |
| 担当教員と研究内容 | 有江 力 小松 健 | 植物病原微生物の遺伝子解析、植物・病原微生物の相互作用と病害抵抗性機構の解明 | 岩淵喜久男*1 平岡 毅 | 昆虫等の制御、有効利用の基礎となる昆虫生理学、生化学、内分泌学及び細胞学 |
| | 夏目 雅裕 川出 洋 | 生物個体の成長・分化や生物間の相互作用を制御する調整物質の探索、精製・単離、構造決定、微量分析、生合成、作用機構の解析 | | |
| | 福原 敏行 森山 裕充 | 細胞機能に対する分子レベルでの解析および細胞機能の制御 | 仲井まどか 井上 真紀 | 天敵を利用した有害昆虫の制御法（生物的防除法）の開発の基礎となる昆虫病理学、昆虫疫学及び生態学 |

*1 平成29年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本専攻所属教員に変更し、引き続き修学が可能。

| 専攻 | 環境資源物質科学専攻 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|--|-------|--|-------|--|-------|---|---------------------|---|--|-------|---|-------|-----------------------------------|---------------------|----------------------------------|------|---|------|--|--------------------|---|---------------------|---------------------------------------|
| 教育研究の目的 | 環境資源物質科学分野において、卓越した能力を有する広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。特に資源物質の構造解析や機能、利用技術、環境への影響・負荷の低減化に寄与できる人材を育成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育研究分野 | 環境資源材料学 | 資源機能制御学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | 生物資源を中心とした物質の分子レベルから巨視的レベルに至る解析、有機化学反応の機構、有用植物資源の開発及び植物組織構造の解析、植物材料の物性と機能の解析及びその高機能化、資源材料の総合的な高度利用、加工技術及び住環境材料の開発など、資源開発から物理的変換利用までの資源循環利用に関する教育研究を行う。 | 植物資源の形成、複合化及び化学加工による機能開発、植物繊維特性の解析とその高機能化、資源のリサイクルと再生化の科学と技術、資源の保存技術及び諸材料の生分解機能の解明と制御など、生物資源の形成・機能開発・再生化から分解・廃棄までの資源循環利用に関する教育研究を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な授業科目 | 環境資源計測学特論、生物物理化学特論、分子ダイナミクス学特論、植物材料物性学特論、住環境材料加工学特論 | 資源複合機能学特論、植物繊維化学特論、再生資源科学特論、生分解制御学特論、植物資源形成学特論、環境資源物質科学特論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員と研究内容 | <table border="1"> <tr> <td>高柳 正夫</td> <td>分光法を用いた資源材料、環境物質の同定・定量、及びそれらの性質や挙動の分子レベルでの解明</td> </tr> <tr> <td>芳賀 尚樹</td> <td>有機光化学 環境中における有機化合物の光化学反応の探索とその機構の解明</td> </tr> <tr> <td>四方 俊幸</td> <td>生体高分子など水溶性物質の水和現象と分子運動の解明 機能性超分子ポリマーの構造と物性の研究</td> </tr> <tr> <td>佐藤 敬一</td> <td>樹木及び木材の組織構造と物理的特性、木質材料や木質構造の評価（特に超音波を利用した非破壊検査）、木材及び森林バイオマス利用を推進するための森林環境教育</td> </tr> <tr> <td>安藤 恵介^{*2}</td> <td>住環境で利活用可能な木材を主とする新素材の開発や加工、並びに住環境材料のライフサイクルアセスメント</td> </tr> </table> | 高柳 正夫 | 分光法を用いた資源材料、環境物質の同定・定量、及びそれらの性質や挙動の分子レベルでの解明 | 芳賀 尚樹 | 有機光化学 環境中における有機化合物の光化学反応の探索とその機構の解明 | 四方 俊幸 | 生体高分子など水溶性物質の水和現象と分子運動の解明 機能性超分子ポリマーの構造と物性の研究 | 佐藤 敬一 | 樹木及び木材の組織構造と物理的特性、木質材料や木質構造の評価（特に超音波を利用した非破壊検査）、木材及び森林バイオマス利用を推進するための森林環境教育 | 安藤 恵介 ^{*2} | 住環境で利活用可能な木材を主とする新素材の開発や加工、並びに住環境材料のライフサイクルアセスメント | <table border="1"> <tr> <td>近江 正陽</td> <td>廃材などを原料とする木質材料の機能化、住環境を形成する木材の機能評価、未利用植物資源の高度利用</td> </tr> <tr> <td>粕谷 夏基</td> <td>再生産可能な生物高分子資源の評価及び環境と調和した機能化・変換利用</td> </tr> <tr> <td>岡山 隆之^{*1}</td> <td>植物繊維資源廃棄物のリサイクルならびに紙資料保存の科学と技術開発</td> </tr> <tr> <td>吉田 誠</td> <td>微生物による木質材料生分解機構の解明、およびその機構に基づくバイオマス変換技術の開発と木材保存への応用</td> </tr> <tr> <td>船田 良</td> <td>植物資源、特に木材など木質資源の組織構造解析、木質資源の形成機構の解明、組織培養法による有用植物資源の開発及び樹木の環境適応性の生理学的解析</td> </tr> <tr> <td>半 智史^{*1}</td> <td>木質バイオマスにおける組織構造特性および材料特性の発現機構解明に向けた細胞生物学的解析</td> </tr> <tr> <td>小瀬 亮太^{*2}</td> <td>植物繊維資源を原料とした高機能性材料の開発ならびに古紙リサイクル技術の開発</td> </tr> </table> | 近江 正陽 | 廃材などを原料とする木質材料の機能化、住環境を形成する木材の機能評価、未利用植物資源の高度利用 | 粕谷 夏基 | 再生産可能な生物高分子資源の評価及び環境と調和した機能化・変換利用 | 岡山 隆之 ^{*1} | 植物繊維資源廃棄物のリサイクルならびに紙資料保存の科学と技術開発 | 吉田 誠 | 微生物による木質材料生分解機構の解明、およびその機構に基づくバイオマス変換技術の開発と木材保存への応用 | 船田 良 | 植物資源、特に木材など木質資源の組織構造解析、木質資源の形成機構の解明、組織培養法による有用植物資源の開発及び樹木の環境適応性の生理学的解析 | 半 智史 ^{*1} | 木質バイオマスにおける組織構造特性および材料特性の発現機構解明に向けた細胞生物学的解析 | 小瀬 亮太 ^{*2} | 植物繊維資源を原料とした高機能性材料の開発ならびに古紙リサイクル技術の開発 |
| 高柳 正夫 | 分光法を用いた資源材料、環境物質の同定・定量、及びそれらの性質や挙動の分子レベルでの解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 芳賀 尚樹 | 有機光化学 環境中における有機化合物の光化学反応の探索とその機構の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 四方 俊幸 | 生体高分子など水溶性物質の水和現象と分子運動の解明 機能性超分子ポリマーの構造と物性の研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佐藤 敬一 | 樹木及び木材の組織構造と物理的特性、木質材料や木質構造の評価（特に超音波を利用した非破壊検査）、木材及び森林バイオマス利用を推進するための森林環境教育 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安藤 恵介 ^{*2} | 住環境で利活用可能な木材を主とする新素材の開発や加工、並びに住環境材料のライフサイクルアセスメント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 近江 正陽 | 廃材などを原料とする木質材料の機能化、住環境を形成する木材の機能評価、未利用植物資源の高度利用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粕谷 夏基 | 再生産可能な生物高分子資源の評価及び環境と調和した機能化・変換利用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岡山 隆之 ^{*1} | 植物繊維資源廃棄物のリサイクルならびに紙資料保存の科学と技術開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 吉田 誠 | 微生物による木質材料生分解機構の解明、およびその機構に基づくバイオマス変換技術の開発と木材保存への応用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 船田 良 | 植物資源、特に木材など木質資源の組織構造解析、木質資源の形成機構の解明、組織培養法による有用植物資源の開発及び樹木の環境適応性の生理学的解析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 半 智史 ^{*1} | 木質バイオマスにおける組織構造特性および材料特性の発現機構解明に向けた細胞生物学的解析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小瀬 亮太 ^{*2} | 植物繊維資源を原料とした高機能性材料の開発ならびに古紙リサイクル技術の開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

* 1 平成29年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本専攻所属教員に変更し、引き続き修学が可能。

* 2 入学志願票（注）4参照

| 専攻 | 物質循環環境科学専攻 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|---|---|-------------------------------|-------|---|-------|------------------------------------|-------|-----------------------------------|------|-----------------------------------|--|-------|---|------|---|------|--|-------|--|-------|---|--------|---|---------|-------------------------------------|
| 教育研究の目的 | 環境生物学及び環境化学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 教育研究分野 | 環境生物学 | 環境化学 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 内容 | 様々な環境における植物・動物・微生物を通じた物質循環の解明と多様な環境汚染物質が生物に及ぼす影響の解明を生物学的視点から行うことを通じて、生態系の保全・修復に必要な手法の開発に寄与する教育研究を行う。 | 様々な環境における微量元素、無機物質、有機化合物などの分布とこれらの循環過程、人間活動による物質循環の攪乱の影響を主として化学的手法を用いて解明し、環境の修復、保全に寄与する教育研究を行う。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主な授業科目 | 環境微生物学特論、環境植物学特論、環境汚染生物学特論、海洋環境生物学特論 | 有機地球化学特論、社会・生物地球化学特論、環境毒理学特論、生物圏物質循環学特論、大気環境学特論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当教員と研究内容 | <table border="1"> <tbody> <tr> <td>片山 葉子</td> <td>環境汚染物質の微生物分解と物質循環における微生物機能の解明</td> </tr> <tr> <td>伊豆田 猛</td> <td>大気汚染ガスや酸性降下物などの環境ストレスが植物に及ぼす影響とそのメカニズムの解明</td> </tr> <tr> <td>多羅尾光徳</td> <td>微生物食物連鎖を通じた生態系における物質循環の構造と機能に関する研究</td> </tr> <tr> <td>大地まどか</td> <td>海洋環境における人工化学物質の動態および水生生物に対する影響の解明</td> </tr> <tr> <td>渡辺 誠</td> <td>樹木の二酸化炭素固定機能に対する大気汚染物質の影響解明とリスク評価</td> </tr> </tbody> </table> | 片山 葉子 | 環境汚染物質の微生物分解と物質循環における微生物機能の解明 | 伊豆田 猛 | 大気汚染ガスや酸性降下物などの環境ストレスが植物に及ぼす影響とそのメカニズムの解明 | 多羅尾光徳 | 微生物食物連鎖を通じた生態系における物質循環の構造と機能に関する研究 | 大地まどか | 海洋環境における人工化学物質の動態および水生生物に対する影響の解明 | 渡辺 誠 | 樹木の二酸化炭素固定機能に対する大気汚染物質の影響解明とリスク評価 | <table border="1"> <tbody> <tr> <td>高田 秀重</td> <td>人為起源有機化合物の分析法の開発、分布の把握、負荷源の特定、動態解明とそのための研究手法の開発</td> </tr> <tr> <td>楊 宗興</td> <td>窒素をはじめとする生元素の生物地球化学的循環とその人為的攪乱により生ずる各種環境問題の解明</td> </tr> <tr> <td>渡邊 泉</td> <td>汚染化学物質、おもに重金属類や生体微量元素・放射性元素の環境動態および野生生物に対する生態毒性の解明</td> </tr> <tr> <td>木庭 啓介</td> <td>生物圏における生元素の循環とその制御機構の解明および安定同位体を用いた物質循環速度の調査法の開発</td> </tr> <tr> <td>松田 和秀</td> <td>大気汚染物質の植生への乾性沈着メカニズムの解明とアジア地域における沈着量の評価</td> </tr> <tr> <td>中嶋 吉弘*</td> <td>夜間大気中に存在する高反応性窒素酸化物を対象とした観測と大気中窒素酸化物の生成・消失過程の解明</td> </tr> <tr> <td>水川 薫子**</td> <td>人為起源有機化合物の生物への蓄積機構および生体内における代謝機構の解明</td> </tr> </tbody> </table> | 高田 秀重 | 人為起源有機化合物の分析法の開発、分布の把握、負荷源の特定、動態解明とそのための研究手法の開発 | 楊 宗興 | 窒素をはじめとする生元素の生物地球化学的循環とその人為的攪乱により生ずる各種環境問題の解明 | 渡邊 泉 | 汚染化学物質、おもに重金属類や生体微量元素・放射性元素の環境動態および野生生物に対する生態毒性の解明 | 木庭 啓介 | 生物圏における生元素の循環とその制御機構の解明および安定同位体を用いた物質循環速度の調査法の開発 | 松田 和秀 | 大気汚染物質の植生への乾性沈着メカニズムの解明とアジア地域における沈着量の評価 | 中嶋 吉弘* | 夜間大気中に存在する高反応性窒素酸化物を対象とした観測と大気中窒素酸化物の生成・消失過程の解明 | 水川 薫子** | 人為起源有機化合物の生物への蓄積機構および生体内における代謝機構の解明 |
| 片山 葉子 | 環境汚染物質の微生物分解と物質循環における微生物機能の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伊豆田 猛 | 大気汚染ガスや酸性降下物などの環境ストレスが植物に及ぼす影響とそのメカニズムの解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 多羅尾光徳 | 微生物食物連鎖を通じた生態系における物質循環の構造と機能に関する研究 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大地まどか | 海洋環境における人工化学物質の動態および水生生物に対する影響の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 渡辺 誠 | 樹木の二酸化炭素固定機能に対する大気汚染物質の影響解明とリスク評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 高田 秀重 | 人為起源有機化合物の分析法の開発、分布の把握、負荷源の特定、動態解明とそのための研究手法の開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 楊 宗興 | 窒素をはじめとする生元素の生物地球化学的循環とその人為的攪乱により生ずる各種環境問題の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 渡邊 泉 | 汚染化学物質、おもに重金属類や生体微量元素・放射性元素の環境動態および野生生物に対する生態毒性の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木庭 啓介 | 生物圏における生元素の循環とその制御機構の解明および安定同位体を用いた物質循環速度の調査法の開発 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 松田 和秀 | 大気汚染物質の植生への乾性沈着メカニズムの解明とアジア地域における沈着量の評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中嶋 吉弘* | 夜間大気中に存在する高反応性窒素酸化物を対象とした観測と大気中窒素酸化物の生成・消失過程の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 水川 薫子** | 人為起源有機化合物の生物への蓄積機構および生体内における代謝機構の解明 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

* 2 入学志願票 (注) 4 参照

| 専攻 | 自然環境保全学専攻 | | |
|-----------|---|---|---|
| 教育研究の目的 | <p>野生生物、山地・森林、都市および人間を対象にして、自然環境の持続的利用と保護及び回復に関わる自然環境保全学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成します。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施します。</p> <p>なお、当専攻では、学術的な教育研究により一層推進するため、通常の指導体制に加えて、専攻所属教員が共同で取り組む研究指導体制があります。進学した学生は、希望により生態系管理にかかわる複合的な研究に参画し、専攻所属教員による集団的な研究指導を受け、修士論文を作成することができます。</p> | | |
| 教育研究分野 | 生態系保全学 | | 森林環境保全学 |
| 内容 | <p>多様な自然環境の保全と人間との良好な関係の構築を目指し、野生動植物の分布や生態の把握、人間社会や人間の健康と自然環境の関わり等の説明、自然の保護や管理、回復の理論と方法などの生態系保全に関する教育研究を行います。</p> | | <p>森林生態系および山地の生物・土・水と言った構成要素において、成因や相互関係を探求して森林環境の形成過程を説明するとともに、森林や山地の環境を人間社会との関わりを含むシステムとしてとらえ、森林資源の持続的利用と森林・山地の保全と回復に関わる科学技術の教育研究を行います。</p> |
| 主な授業科目 | <p>植生管理学特論Ⅰ、Ⅱ、生物多様性保全学特論Ⅰ、Ⅱ、野生動物保全政策学特論Ⅰ、Ⅱ、野生動物保全生態学特論Ⅰ、Ⅱ、野生動物救護学Ⅰ、Ⅱ、健康アメニティ科学特論Ⅰ、Ⅱ、人間生理生態学特論Ⅰ、Ⅱ、景観生態学特論Ⅰ、Ⅱ</p> | | <p>森林-人間系科学論Ⅰ、Ⅱ、森林計画学特論Ⅰ、Ⅱ、森林生態学特論Ⅰ、Ⅱ、森林土壌学特論Ⅰ、Ⅱ、山地保全学特論Ⅰ、Ⅱ、森林水文学特論Ⅰ、Ⅱ、森林利用システム学特論Ⅰ、Ⅱ、森林施設工学特論Ⅰ、Ⅱ、森林保護学特論Ⅰ、Ⅱ</p> |
| 担当教員と研究内容 | <p>星野 義延 吉川 正人</p> | <p>森林・草原などの植物群落の生態的特性の説明と、その保護・管理のための理論と方法</p> | <p>土屋 俊幸 加用 千裕*</p> <p>自然資源管理（含自然公園）、農山村の観光レクの研究 森林の温暖化緩和機能、木材需要構造と環境影響の評価</p> |
| | <p>梶 光一 金子 弥生 鈴木 馨</p> | <p>野生鳥獣の個体群と生息地、保全生態学、救護学など、野生動物の保護と管理のための理論と方法</p> | <p>戸田 浩人 崔 東寿</p> <p>森林立地環境の保全および利用と緑化のための、森林生態系・森林土壌系での物質循環および樹木生理生態の解明</p> |
| | <p>植竹 照雄* 下田 政博</p> | <p>健康と密接に関係する各種生体情報を手がかりとした、ヒトと自然との健全な共生関係の解明</p> | <p>石川 芳治* 白木 克繁</p> <p>山地流域における水循環および土砂の運動機構の解明と、それらに起因する災害の防止・軽減手法</p> |
| | <p>赤坂 宗光 岩井 紀子</p> | <p>陸域および陸水域に生息する生物種・個体群・群集とそれらを含む広域生態系を保全するための理論と方法</p> | <p>岩岡 正博 松本 武*</p> <p>木材やバイオエネルギーなどの資源の効率的利用と、利用による環境負荷を低減するための技術の構築</p> |
| | | | <p>小池 伸介 渡辺 直明* 吉田 智弘*</p> <p>鳥獣、昆虫、植物、菌類などの様々な生物の森林生態系での役割 自然保護などの緑の環境整備に関する技術や森林生物の保全学</p> |

* 1 平成29年3月31日退職予定。但し、指導を受ける学生は、研究指導教員を本専攻所属教員に変更し、引き続き修学が可能。

* 2 入学志願票（注）4 参照

| 専攻 | 農業環境工学専攻 | | | |
|-----------|---|--|--|---|
| 教育研究の目的 | 農学と工学の手法を駆使して、海外も含む、都市・農山村地域の発展に貢献し、持続的食料生産システムや地域環境整備を行う農業環境工学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。この目的を達するため下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | |
| 教育研究分野 | 地域環境工学 | | 生物生産工学 | |
| 内容 | 都市・農村地域における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図り、また、農業者の生活環境整備に資する農村計画、住環境整備について教育研究を行う。 | | 生産性向上と環境保全の問題を同時に解決しうる食糧生産供給システムの構築を目指す知識と技術に関する教育研究を行う。 | |
| 主な授業科目 | 農村地域計画学特論、地域環境解析学特論、地水環境工学特論、水利用学特論、水環境保全学特論 | | 自然エネルギー利用学特論、精密農業特論、生産制御工学特論、カオス農学特論、情報処理学特論 | |
| 担当教員と研究内容 | 斎藤 広隆 | 物質移動解析に基づく土壌環境の保全・再生・持続的な利用に関する研究および工学的解析による地盤の安定や防災に関する研究 | 東城 清秀 | 持続的な食料供給を目指した農業システム、未利用・廃棄系バイオマスの再資源化、自然エネルギー利用等に関する研究 |
| | 大里 耕司** | 管水路系に現れる非定常現象を解明し、維持保全のための水利システムの効果的運用についての研究 | 帖佐 直 | 生産環境の計測制御技術および農産物の品質評価、貯蔵、ハンドリングなどに関連したポストハーベスト研究 |
| | 中島 正裕 | 中山間地域の活性化と震災復興（東日本大震災）を目的とした土地利用計画、地域資源管理、及び意志決定支援に関する研究 | 澁澤 栄 | 精密復興農業、リアルタイム土壌センサー、ほ場 GIS、農業知財の活用法に関する研究 |
| | 山下 恵** | 空間情報技術を用いたマルチスケールでの環境モニタリング手法の開発および生態系評価に関する研究 | 酒井 憲司 | 農業システムや生態系における諸現象をダイナミカルシステムと捉え、モデリング、数値解析、予測、制御の方法論についての研究 |
| | 福田 信二** | 生態水理学とエコインフォマティクスを基軸とし、持続的な水資源管理や生態系と調和した農業農村整備への貢献を目指した研究 | 辰己 賢一** | 地球規模あるいは地域レベルの将来気候変動が農作物生産性に与える影響の定量的評価とその適応策に関する研究 |

* 2 入学志願票（注）4 参照

| 専攻 | 国際環境農学専攻 | | | | | |
|-----------|--|--|--|--|--|--|
| 教育研究の目的 | 学際的な環境農学分野において、国際的視野を持ち、諸外国の文化を理解し、国際社会において指導的立場で活躍できる専門家及び研究者を養成する。この目的を達するために下記教育研究分野における革新的学術研究を併せて実施する。 | | | | | |
| 教育研究分野 | 国際環境修復保全学 | | 国際生物生産資源学 | | | |
| 内容 | 生物と人間の相互作用に留意しながら、地域の自然—農業生態系における環境劣化の実態分析、地域環境の修復手法の開発や保全計画の策定、環境に配慮した持続的な農業生産のための水の有効利用や土地の保全、地下水環境のモニタリング、土壌汚染防止等に関する研究を行う。 | | 国際的・地域的な見地から、現在有用な、また将来利用可能な生物資源の探索および生物的機能の分析を行う。さらに、地域の生物資源と生態環境を活かし、持続可能な生物生産技術を開発するための総合的な研究を行う。 | | | |
| 主な授業科目 | 環境修復保全学、水環境評価学、水環境保全学、地域環境計画学、地球環境論 | | 地域持続生物生産技術学、生物資源循環利用学、生物新機能開発学、地域生物機能利用学 | | | |
| 担当教員と研究内容 | 向後 雄二 | 地震や豪雨に代表される農地・農村の地盤災害や地盤環境の劣化を軽減し、地盤環境を保全するための解析、対策技術の開発研究を行う。 | 藤井 義晴 | 植物から放出される天然化学物質が他の生物に及ぼす現象（アレロパシー、他感作用）等の生物機能を探索し、その活性が強い被覆植物や作物等を用いた農業技術について研究する。 | 竹内 郁雄 | 途上国・地域の開発・協力の諸問題を、経済開発論を基礎としつつ、地域の固有性をも踏まえて考察する。 |
| | | 農業等の汚染物質の環境動態モニタリングおよびそのモデル化を通して、環境中での動態予測や影響評価を行い、環境影響の低減手法や環境修復手法の提案を行う。 | | 国内外のさまざまな農林生態系における資源循環を調査し、生物生産と環境負荷のバランスを考慮した持続的な生産体系について研究する。 | | 山田 祐彰 |
| | アジアにおける農業の水利利用と環境保全の調和について、水文学と流域管理の観点から解析し、生態系サービスの向上に関する研究を行う。 | 熱帯地域における生物生産・資源管理および環境保全に役立つ、農林業技術の探索・開発について研究し、現地での改良を図る。 | | 新 海松** | 持続可能な開発を効果的に実現する人口動態に注目しつつ、途上諸国・地域、特に中国の人口問題に関する調査研究を行う。 | |
| | 流域水系ネットワークでの水や土の移動現象解明、河川生態系の機能評価を行い、森林や水などの流域資源管理計画や技術について応用していく。 | 農業や環境修復に役立つ微生物を分離して、ゲノム解析や分子生物学的解析を行い、国内外の持続的農業生産に応用する。 | | | 山浦 紘一** | |
| | 国際的な乾燥地における水質を中心とした環境問題の実態解明を行い、その修復や対応策などについて計画を行う。 | | | | | |
| 五味 高志 | | 及川 洋征** | | | | |
| 川端 良子 | | 岡崎 伸** | | | | |

* 2 入学志願票（注）4 参照

2. 学位授与

- (1) 本学大学院農学府修士課程に2年以上在学し、下記(2)に示す単位を修得し、かつ学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修士（農学）または修士（学術）の学位を授与します。
- (2) 学生は専攻ごとに定められた必修科目及び選択科目の単位を合わせて30単位以上修得しなければなりません。ただし、国際環境農学専攻の学生については、32単位以上修得しなければなりません。

3. 本学大学院博士課程の概要

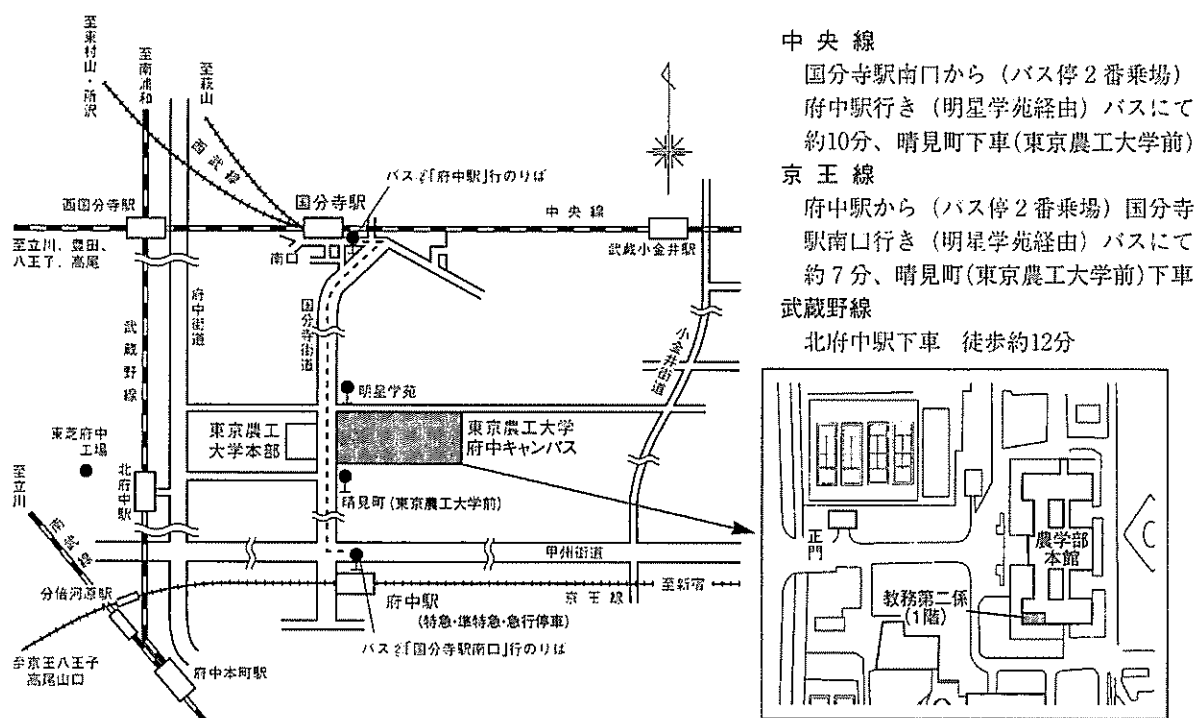
本学には、本学府と茨城大学及び宇都宮大学の修士課程農学研究科の教員が協力して教育・研究指導を行う東京農工大学大学院連合農学研究科博士課程が設置されています。

また、本学には博士前期・後期課程の5年制の工学府並びに生物システム応用科学府が設置されています。

なお、本学農学部共同獣医学科と帯広畜産大学、岩手大学及び岐阜大学の3獣医学科が協力して教育・研究指導を行う連合獣医学研究科博士課程が岐阜大学大学院に設置されています。

修士課程修了者は、大学院博士課程を受験する資格を得ることができます。

4. 交通案内



中央線

国分寺駅南口から（バス停2番乗場）
府中駅行き（明星学苑経由）バスにて
約10分、晴見町下車（東京農工大学前）

京王線

府中駅から（バス停2番乗場）国分寺
駅南口行き（明星学苑経由）バスにて
約7分、晴見町（東京農工大学前）下車

武蔵野線

北府中駅下車 徒歩約12分

〒183-8509 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学 府中地区事務部学生支援室教務第二係
電話（直通）042-367-5659【土・日・祝日を除く午前9時～午後5時】

入学検定料払込用紙 [大学院農学府 修士課程 (第2次) 用]

- ・本払込用紙に、志願者（ご依頼人）の住所・氏名（フリガナ）を記入のうえ、支払期限までに郵便局・ゆうちょ銀行窓口でお支払いください。
- ・右端の「振替払込受付証明書」を、入学検定料納付確認票に貼り付けて提出してください。（日附印のないものは無効）
- ・「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。

切 り 取 っ て ご 使 用 く だ さ い

払 込 取 扱 票

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|---|-----|----|---|---|---|---|---|--|--|
| 00 | | 払 込 取 扱 票 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 口座記号番号 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 8 | 4 | 6 | 3 | 4 | 2 | 6 | 金額 | 千 | 百 | 十 | 万 | 千 | 百 | 十 | 円 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | | |
| 加入者名 | 国立学校法人 東京農工大学 | | | | | | | | | | | 料金 | | | 備考 | | | | | | | |
| 通信欄 | ※ 平成28年4月入学 入学検定料 東京農工大学 大学院農学府 修士課程 (第2次) 支払期限 平成27年12月3日 必ず窓口で払い込み、ATM(現金自動預払機)は使用しないでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ご依頼人 | 志願者住所 (郵便番号) ※ 志願者氏名 (フリガナ) | | | | | | | | | | | | | 日附印 | | | | | | | | |
| 裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) (承認番号東第44194号) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| これより下部には何も記入しないでください。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

振替払込請求書兼受領証

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 口座記号番号 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 8 | 4 | 6 | 3 | 4 | 2 | 6 | | | | | |
| 加入者名 | 国立大学法人 東京農工大学 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金額 | 千 | 百 | 十 | 万 | 千 | 百 | 十 | 円 | | | | | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ご依頼人 | 志願者氏名 (フリガナ) ※ | | | | | | | | | | | 様 | | | | | |
| 料金 | (預払請求) 日附印 円 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

記載事項を訂正した場合は、その箇所を訂正印を押してください。切り取らないで郵便局にお出しく下さい。

振替払込受付証明書 (お客さま用)

[大学提出用]

(ご依頼人の郵便局・ゆうちょ銀行のご依頼人)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|----------------|---|---|---|---|---|---|---|--|--|--|-----|---|---|---|---|---|
| 口座記号番号 | 00120-8-463426 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 加入者名 | 国立大学法人 東京農工大学 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 金額 | 千 | 百 | 十 | 万 | 千 | 百 | 十 | 円 | | | | | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ご依頼人住所氏名 | ※ (志願者住所氏名) | | | | | | | | | | | 様 | | | | | |
| 平成28年4月入学 入学検定料 大学院農学府 修士課程 (第2次) | | | | | | | | | | | | 日附印 | | | | | |
| 日附印のないものは無効 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (承認番号東証第1217号) | | | | | | | | | | | | | | | | | |

切り取らないで郵便局にお出しく下さい。

[大学院農学府 修士課程 (第2次) 用]

- ① 入学検定料は、必ずこの払込用紙を使用して郵便局・ゆうちょ銀行で払い込んでください。
- ② 払込の際に日附印を押印した「振替払込受付証明書」を受け取り、入学検定料納付確認票の指定欄に貼り付けて提出してください。

(注意)

志願者住所、氏名欄に記入漏れがないか、郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が漏れていないか、確認の上提出してください。
(記入漏れ、日附印のないものは無効となります。)

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この用紙を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引き換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・この用紙による、払込料金は、ご依頼人様が負担することとなります。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
3万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

平成28年4月入学（第2次）
東京農工大学大学院農学府修士課程 入学志願票

Application Form for Entrance Examination (Secondary Recruitment) to Master's Course (For Entrance April, 2015)
Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology

| | | | | |
|---|--|---|------------------------------|--|
| (注)1 選抜方法の区分 Selection Category | 一般選抜 General Selection | 社会人特別選抜 Special Selection for Working Adults | (注)2 受験番号 Application No. | ※ |
| フリガナ 氏名 Name | | | | 男 Male ・ 女 Female |
| 生年月日 Date of Birth | 西暦 | 年 Year | 月 Month | 日 Day |
| 志望専攻 Applying Department | Department of | | | 専攻 |
| 志望教育研究分野 Applying Field | Field of | | | 教育研究分野 |
| 出願資格 Application Requirement | | | | 大学 University |
| | | | | 学部 Faculty |
| | | | | 学科 Department |
| | (Expected) | Date of Graduation | 西暦 | 年 Year |
| | | | 月 Month | 卒業 (見込) |
| | 西暦 | 年 Year | 月 Month | |
| | 西暦 年 月 日 学士 () 月 () 年 独立行政法人大学評価・学位授与機構 (Expected) Date awarded a bachelor's degree by National Institution for Academic Degrees and University Evaluation () Month () Year Bachelor of () | | | |
| (注)3 出願時に選択する外国語 Foreign Language Selected | 共生持続社会学専攻の外国人志願者のみ記入 | | | |
| (注)4 志望する研究 主指導教員 Name of Preferred Main Supervisor | | | | 共生持続社会学専攻、応用生命化学専攻、自然環境保全学専攻のみ第2志望研究主指導教員名を記入 (Specify the name of an alternative major academic supervisor only when applying for Department of Studies in Sustainable and Symbiotic Society and Department of Applied Biological Chemistry and Department of Environment Conservation.) |
| 現住所 Current Address | (〒 -) | | | |
| 電話番号 Telephone No. | 自宅 Home | () - | 携帯 Mobile | () - |
| (注)5 合格通知等連絡場所 Mailing Address for Notification of Admission | (〒 -) | | | |
| 電話番号 Telephone No. | () - | | | |

裏面の記入事項の注意をよく読んで記入してください。
Please refer to the back of this page, before filling this page.

- (注) 1. 該当する文字を○で囲んでください。
- (注) 2. ※印欄には記入しないでください。
- (注) 3. 「出願時に選択する外国語」欄は、共生持続社会学専攻の外国人志願者のみ記入してください。
- (注) 4. 「志望する研究主指導教員」欄について
- ・各専攻の担当教員（11～20ページ参照）から選んで記載してください。出願にあたっては志望する指導教員に連絡し、事前に確認を得てください。ただし、*2印の教員は記載できません。
 - ・共生持続社会学専攻、応用生命化学専攻、自然環境保全学専攻のみ第2志望研究主指導教員名を記入してください。
 - ・第2志望研究主指導教員は、同じ専攻内であれば教育研究分野が異なっても構いません。
- (注) 5. 本学からの通知等の送付先住所が現住所と異なる場合のみ記入して下さい。

- (注) 1. Circle around an applicable item.
- (注) 2. Do not fill in the section marked with ※.
- (注) 3. Fill the selected language if applicant is foreigner who is applying for Department of Studies in Sustainable and Symbiotic Society.
- (注) 4. [Major academic supervisor]
- *Select one supervisor from the list of supervisors in the applying department (see page 11–20).
Contact with possible supervisor and discuss about your study before you apply.
Do not fill professor(s) marked with *2.
 - *Specify the name of an alternative major academic supervisor only when applying for Department of Studies in Sustainable and Symbiotic Society and Department of Applied Biological Chemistry and Department of Environment Conservation.
 - *You can select an alternative academic supervisor with different study field within the same department.
- (注) 5. Specify only when mailing address (for notification of admission) and current address is different.

平成28年4月入学（第2次）
入学検定料納付確認票
April, 2016 Entrance
(Secondary Recruitment)
Entrance Examination Payment
Confirmation Slip

| | |
|------------------------------|---|
| (注)1 受験番号 Application No. | ※ |
|------------------------------|---|

東京農工大学大学院農学府修士課程
(第2次)用の「振替払込受付証明書」
を貼りつけてください。
Affix "Postal Money Transfer
Certificate" here.

(注意)

1. 日附印がないものは無効です。
2. 振替払込受付証明書の所定欄に志願者住所・氏名を必ず記入してください。
3. 受信証は大切に保管し、ここに添付してはいけません。
4. 納入された入学検定料は返還いたしません。

Note:

1. Certificate must be postmarked to be valid.
2. Ensure to fill in your name and address on the certificate.
3. Keep your copy of Proof of Money Transfer safe. DO NOT affix it here.
4. As a rule, there will be no refund on the paid examination fee.

(切り離さないでください)

平成28年4月入学（第2次）
東京農工大学大学院農学府
写真票
April, 2016 Entrance (Secondary Recruitment)
Photograph Card
Graduate School of Agriculture
Tokyo University of Agriculture and Technology

| |
|---|
| 写真 Photograph 縦4.5 cm×横3.5 cm 出願前3ヵ月以内に撮影したもの。 (上半身、無帽、正面向き) Must be taken within 3 months prior to application. (Upper Body, Bare Head, Face Front) |
|---|

| | |
|------------------------------|-------------------------|
| (注)1 受験番号 Application No. | ※ |
| **** 氏名 Name | |
| 志望専攻 Applying Department | Department of 専攻 |
| 志望教育研究分野 Applying Field | Field of 教育研究分野 |

(切り離さないでください)

平成28年4月入学（第2次）
東京農工大学大学院農学府
受験票
April, 2016 Entrance (Secondary Recruitment)
Examinee's Registration Card
Graduate School of Agriculture
Tokyo University of Agriculture and Technology

| | |
|--|-------------------------------|
| (注)1 受験番号 Application No. | ※ |
| **** 氏名 Name | |
| 生年月日 Date of Birth | 西暦 年 月 日 Year Month Day |
| 志望専攻 Applying Department | Department of 専攻 |
| 志望教育研究分野 Applying Field | Field of 教育研究分野 |
| (注)2 出願時に選択する外国語 Foreign Language Selected | |
| (注)3 志望する研究主指導教員 Name of Preferred Main Supervisor | |
| 学力検査の際は必ず本票を机の上においてください。 Place this card on your desk on the day of the exam. | |

切り取り線

(注)1. ※印欄には記入しないでください。

(注)2. 「出願時に選択する外国語」欄は、共生持続社会学専攻の外国人志願者のみ記入してください。

(注)3. 「志望する研究主指導教員」欄について

- ・各専攻の担当教員（11～20ページ参照）から選んで記載してください。出願にあたっては、志望する指導教員に連絡し、事前に確認を得てください。ただし、*2印の教員は志望することができません。
- ・共生持続社会学専攻、応用生命化学専攻、自然環境保全学専攻のみ第2志望研究主指導教員名を記入してください。
- ・第2志望研究主指導教員は、同じ専攻内であれば教育研究分野が異なっても構いません。

(注)1. Do not fill in the section marked with ※.

(注)2. Fill the selected language if applicant is foreigner who is applying for Department of Studies in Sustainable and Symbiotic Society.

(注)3. [Major academic supervisor]

*Select one supervisor from the list of supervisors in the applying department (see page 11-20).

Contact with possible supervisor and discuss about your study before you apply.

Do not select professor(s) marked with *2.

*Specify the name of an alternative major academic supervisor only when applying for Department of Studies in Sustainable and Symbiotic Society and Department of Applied Biological Chemistry and Department of Environment Conservation.

*You can select an alternative academic supervisor with different study field within the same department.

履歴書 Curriculum Vitae

| | | | |
|------------------------|-------------------------------|---------------------------|---|
| フリガナ 氏名 Name | | 受験番号 Application No. | ※ |
| 生年月日 Date of Birth | 西暦 年 月 日 Year Month Day | 本籍 (都道府県名) Nationality | |
| 現住所 Current Address | TEL () - | | |

| 学歴 Educational Background | | | |
|-------------------------------------|-----------------------|--|---------------------------------|
| 区分 Classification | 学校名 Name of School | 入学及び卒業年月 (西暦) Year and Month of Entrance and Completion | 修業年限 Required Years of Study |
| 小学校 Elementary School | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| 中学 Junior High School | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| 高校 Senior High School | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| 大学 University (Undergraduate) | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| 大学院 Graduate School | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| 研究生 Research Student | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |
| その他 Others | | 入学 From | 年 Years |
| | | 卒業 To | |

| 職歴 Work Experience | | |
|------------------------------|-----------------------------------|--------------------|
| 勤務先名 Name of Organization | 在職期間 (西暦) Period of Employment | 職種 Type of Work |
| | 就職 From | |
| | 退職 To | |
| | 就職 From | |
| | 退職 To | |
| | 就職 From | |
| | 退職 To | |

※の欄は、記入不要。

Do not fill in the section marked with ※.

志望理由書

Statement of Purpose

| | | | |
|-----------------------------|--|----------------------------|---|
| 氏名 Name | | 受験番号 Application No. | ※ |
| 志望専攻 Applying Department | | 志望教育研究分野 Applying Field | |
| | | | |

字数は、1,000字程度。※の欄は、記入不要。

Write within 500 words.

Do not fill in the section marked with ※.

研究計画書 Research Plan

(社会人特別選抜、
出願資格(9)・(10)用)

| | | | |
|---|--|----------------------------|---|
| 氏名 Name | | 受験番号 Application No. | ※ |
| 志望専攻 Applying Department | | 志望教育研究分野 Applying Field | |
| 研究課題名 Research Topic | | | |
| 研究目的・研究計画 Objectives of research and research plan | | | |

字数は、1,000字程度。※の欄は、記入不要。

Write within 500 words.

Do not fill in the section marked with ※.

入学試験出願資格事前審査申請書
Application Form for Preliminary Authorization of Entrance Examination Qualification

東京農工大学大学院農学府長 殿
To Dean of the Graduate School of Agriculture
Tokyo University of Agriculture and Technology

貴大学大学院農学府修士課程に入学を志願するにあたり、事前審査を受けたく書類を添えて申請しますので、よろしくお願ひします。

I hereby submit documents required to apply for preliminary authorization of qualification for taking an entrance examination of master's course, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology.

年 月 日
Year Month Day

| | | | | |
|--|--------------|-----------|---|---|
| フリガナ 氏名 Name | | | | 写真 Photograph 縦4.5 cm×横3.5 cm 出願前3ヵ月以内に撮影したもの。 (上半身、無帽、正面向き) Must be taken within 3 months prior to application. (Upper Body, Bare Head, Face Front) |
| 生年月日 Date of Birth | 西暦 | 年 Year | 月 Month | 日 Day |
| (注)1 出願資格 Application Requirement | (8)・(9)・(10) | | | |
| 現住所 Current Address | (〒 -) | | | TEL () - |
| 志望専攻 Applying Department | | | 志望する研究主指導 教員 Name of Preferred Main Supervisor | |

(注) 1 該当する数字を○で囲んでください。
Circle around an applicable number.

宛名票 Mailing Labels

- ・住所を変更した場合には、すみやかに届け出て下さい。
- ・※印欄は記入しないでください。
- ・「様」はなおさず、そのままにしておいてください。
- ・ You must report any changes in the mailing address to the admission office.
- ・ Do not fill in the section marked with ※.

| | |
|-----------------------------|--|
| 志望専攻 Applying Department | |
| 志望教育研究分野 Applying Field | |

合格通知用
For Notification of Admission

| | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 住所 Address | | | | | | |
| Name | | | | | | |
| 様 | | | | | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 受験番号 Application No. | ※ |
|-------------------------|---|

入学手続書類送付用
For Notification of Enrollment
Procedure

| | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 住所 Address | | | | | | |
| Name | | | | | | |
| 様 | | | | | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 受験番号 Application No. | ※ |
|-------------------------|---|

予備用
For Spare

| | | | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 住所 Address | | | | | | |
| Name | | | | | | |
| 様 | | | | | | |

| | |
|-------------------------|---|
| 受験番号 Application No. | ※ |
|-------------------------|---|